

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600414		
法人名	ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティとよだ		
所在地	静岡県磐田市豊田35		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600414-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は自然に囲まれ四季を感じられる場所にあります。居室は個室で馴染みの物を自宅から持ってきて頂き少しでも安心して頂けるように過ごして頂いています。現在はコロナ禍で外出の機会が減っている為、施設内で楽しんで頂けるように月1でお楽しみ会を開催しています。入居者の中には踊りや歌の好きな方がおり、お楽しみ会で披露して下さり和気あいあいと過ごしています。職員も経験豊富な方が多い為、入居者の気持ちに寄り添いながら支援させていただいております。ご家族様には月に一度おたよりを送り、写真と様子が分かるように担当者がコメントを載せています。何かあれば綿密に連絡をし相談させていただきます。ご家族様からも気軽に相談して頂けるような雰囲気作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は田んぼが広がる静かな環境で、地域住民とのつながりを大切にしている。管理者は、法人本部と連携を図りながら、ケアマネジャーや職員とともに事業所理念の実践に努めている。現在はコロナ禍により、外出や外部との交流を制限する状況だが、事業所内での行事(お楽しみ会)を毎月行い、管理者は職員とともに、利用者の意向に沿った「あきの来ない暮らし」の支援に努めている。感染症対策として、こまめな換気・清掃により居住空間の清潔保持に努めている。手作りの食事を提供し、利用者の味や好みを聴き取り、献立作りに役立っている。家族との面会を制限する中でも、写真と一言を添えたおたより「サンシティとよだ」を毎月家族へ郵送して利用者の暮らしぶりを伝え、関係継続を心掛けている。感染症対策の状況をみながら運営推進会議を開催し、市・地域包括支援センター職員や自治会長・家族との意見交換や情報共有を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目の付く所に掲示し、実践につなげています。	事業所理念を玄関や事業所内に掲示し、常に確認しながら理念の実践に努めている。管理者と職員・ケアマネジャーは、朝・夕の申し送り時に申し送りノートやiPadを活用して、職員間の課題や引き継ぎ事項について情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの為、機会が減っていますが、地域の祭典の時には来ていただいたり、移動スーパーが来た時には施設に寄って話をしてくださる事もありました。	自治会に加入し、日頃の挨拶や回覧板の受け渡し等、地域住民とのつながりを大切にしている。現在はコロナ禍により、交流・行事を制限しているが、平時には秋祭り・防災訓練の参加や、ボランティアの訪問、学生との交流を行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナもあり減っている状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナで市から中止するよう指示があった為、中断しています。	コロナ禍において感染状況を判断しながら、書面開催等による運営推進会議を開催している。開催時には、市「地域包括支援センター職員や自治会長・民生委員等の地域住民代表、家族代表の参加により、意見交換と情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は月に一度会議がありましたが、コロナの為現在は中止となっています。分からない事があれば、電話や高齢者支援課に行き相談しています。	管理者は、運営推進会議の開催や利用者募集等の相談について、市や地域包括支援センターと積極的に連絡を取り、常に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回身体拘束適正化委員会、半年に一度の勉強会を開催しています。参加できなかったスタッフにも内容を説明し全員で共有しています。	指針・マニュアルを整え、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。法人本部と協力しながら、テーマを決めて研修会を年2回実施し、職員全員で身体拘束を行わないケアを心掛けている。玄関の施錠は行わず、職員が見守りに留意して支援している。	

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これはと思う言動やケアがあれば職員同士注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中々、機会がない為今後取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明しています。不安、疑問に思う事がないか確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為、現在は中止しているが、介護相談員の方に月に一度来ていただき、お話しして頂いています。	毎月、写真と一言添えたお便りを郵送して、利用者の様子を伝えている。コロナ禍の感染状況により、家族面会の緩和・中止を繰り返している状況だが、管理者はこまめな電話連絡により、家族が相談しやすい環境作りを心掛けている。	家族の意向や要望は、事業所運営にとって重要な情報であるが、コロナ禍の中では家族との接触機会が少ないことから、家族に向けてアンケート実施やSNSを活用した面会実施等、積極的な対応の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	中々、全員で集まることは今は出来ていないが業務の様子や利用者様の状態などを聞き取り反映させています。	職員はベテラン職員が多く、都度話し合う関係ができています。管理者はケアマネジャー・職員とともに、朝・夕の申し送りノートやiPadの記録、モニタリング表を活用して情報共有を図り、職員の意見の吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格など取りたい職員には取得に向けた支援をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に関する講習会を紹介したり、研修などがあれば参加しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウイルスの為、ほとんどできていませんが、以前は月に一度、市で行われている会議等に参加していました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安や要望などをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に不安、要望を聞かせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時前に必要なサービスを決め、お伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のお話をしっかりと聞き、不安や要望などなるべく添えるように努めています。できることは、見守りながら支援させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に何かあれば、すぐに家族に相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染の為、あまりできていませんが、面会、外出、外泊などはして頂く事ができます。	コロナ禍により友人・家族との面会や外出を制限している状況だが、職員は、事業所や職員が馴染みの関係となれるように心掛けている。毎月「お楽しみ会」を行い、お菓子作りや利用者によるギターや踊りの発表会を行うなど、利用者が楽しく暮らせる工夫と支援に努めている。	

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しています。ほとんどの方が日中はホールにおられ、会話をしたり、家族の様に過ごされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を話しやすい環境作りに努めています。	利用者・家族の思いや意向は、入居時にケアマネジャーと管理者が丁寧に聴き取り、「入居時記録」「出来ること、出来ないことシート」に整理して介護計画に繋げている。入居後の意向は、日々の会話や電話連絡により都度確認しながら、情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を記入して頂き、会話の中で、今までの暮らしなど聞いています。入居後も経過の記録を記入しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝はバイタルチェックを行い、体調の変化があれば看護師、かかりつけ医に相談しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表に変わった事があれば記入、関係者から情報を集め、介護計画に反映しています。	申し送りノートやiPadによる記録や3か月・6か月毎のモニタリング表に基づき、「担当者の眼」による意見を取り入れ、職員全員で介護計画の作成と支援の実践に努めている。管理者は、家族と都度連絡をとり、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はiPadに細かく記録し、変更内容などは申し送りノートや口頭で伝え、共有している。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話しあい変更しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は回覧板などで知ります。参加できる事は参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にお聞きし、本人が希望する所があれば今まで通りの病院へ受診して頂いています。	協力医は、利用者の体調に合わせて往診・通院の対応ができる。月2回、協力歯科医は訪問診療を受けている。看護師は週1回訪問し、管理者・職員と情報を共有しながら、利用者の体調管理を行っている。かかりつけ医への通院は、管理者が対応し、家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば看護師に伝え次の支援に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に情報を送らせていただいています。その後も病院と情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	多職種と連携し、本人、家族と情報を共有しています。	重度化した際の事業所の対応について、指針・マニュアルを整え、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、協力医・看護師・職員とともに再度確認し、家族の意向に沿って対応している。重度化した際の対応や終末期に関する研修を行い、的確な支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に訓練をしています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的に行っています。	災害対策訓練は、年2回、防災担当者を中心に、地域消防署と連携しながら、火災・水害・夜間避難などテーマを決めて実施している。災害備蓄品は5日分を目途に、備蓄台帳に記載してローリングストックで管理し、職員間で情報を共有している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、言葉使いは親しみをこめた優しい言葉かけに心掛けています。	指針を整え、人格を尊重した支援を心掛けている。写真掲載については、入居時に利用者・家族の同意を得ている。利用者への対応に課題がある場合は、管理者・ケアマネジャーは都度注意しながら、職員全員が丁寧な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を言いやすい様に声をかけたり、雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりはありません。利用者様のペース、様子を見ながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は馴染みの物を着て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人、食べやすい食事形態で提供しています。食事の下膳やテーブル拭きなど、できる方は行っています。	配膳・下膳など、利用者ができることを職員とともにやっている。食事は職員が手作りで提供し、利用者と一緒に食べながら、味や好みを聴き取り、献立作りに反映している。お楽しみ会では、お菓子作りや季節感のある献立を考え、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は細かく記録し、状態を把握しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせて行っています。治療が必要であれば、訪問歯科を利用している方もいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行ける方は出る時間を把握し声かけしています。	iPadを活用して排泄パターンを把握し、利用者の様子を観察しながら、トイレ誘導の声掛けを行っている。安全面から、夜間のみポータブルトイレを利用する場合がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳酸菌飲料など食事に取り入れてています。毎日排便の状態を確認し便秘の予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体決まっていますが、希望があればいつでも入れます。	入浴は週3日、午前浴を基本としているが、利用者の体調や気分により、午後入浴など柔軟に対応している。職員は、利用者がゆったりと入浴を楽しめることを第一に考えて、声掛けに工夫しながら、利用者の希望に沿った支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時もありますが、安心して過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、かかりつけ医に相談し説明を受けて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握して施設でもいかにせるように支援しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナであり要望に答える事はできていないが、要望があればできるだけお応えしています。	利用者の希望に合わせ、家族との外出や外泊を支援していたが、コロナ禍により、現在は中止している。日頃から、事業所の周りの景色を眺めたり、駐車場で外の気浴、近くのお店への買い物など、工夫しながら対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額なお金はお持ちいただけませんが、本人が管理できる範囲内であればお持ちいただいています。買い物に行きたい方は付き添いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をして頂いています。携帯電話を持っている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔に努めています。ホールには掲示物を月ごとに変えています。	職員は、感染症対策を第一とし、定期的な換気や消毒・清掃を利用者とともにを行い、安全に清潔な環境で過ごせるように努めている。季節の変化を感じられるように配慮し、利用者とともに作成した貼り絵やぬり絵を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファが2つあり好きな所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き使用しています。	大きなクローゼットがあり、担当職員とともに衣類の整理や衣替えを行っている。筆筒やベッド、テレビなど、使い慣れた家具を持ち込み、利用者個々の生活に合わせた居室作りを支援している。生け花を楽しんだり、仏壇に花を供える利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で安心安全に暮らして頂ける様に身の回りの物はその方にあった物を使用しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600414		
法人名	ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティとよだ		
所在地	静岡県磐田市豊田35		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600414-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は自然に囲まれ四季を感じられる場所にあります。居室は個室で馴染みの物を自宅から持ってきて頂き少しでも安心して頂けるように過ごして頂いています。現在はコロナ禍で外出の機会が減っている為、施設内で楽しんで頂けるように月1でお楽しみ会を開催しています。入居者の中には踊りや歌の好きな方がおり、お楽しみ会で披露して下さり和気あいあいと過ごしています。職員も経験豊富な方が多い為、入居者の気持ちに寄り添いながら支援させていただいております。ご家族様には月に一度おたよりを送り、写真と様子が分かるように担当者がコメントを載せています。何かあれば綿密に連絡をし相談させていただきます。ご家族様からも気軽に相談して頂けるような雰囲気作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目の付く所に掲示し、実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの為、機会が減っていますが、地域の祭典の時には来ていただいたり、移動スーパーが来た時には施設に寄って話しをしてくださる事もありました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナもあり減っている状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナで市から中止するよう指示があった為、中断しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は月に一度会議がありましたが、コロナの為現在は中止となっています。分からない事があれば、電話や高齢者支援課に行き相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回身体拘束適正化委員会、半年に一度の勉強会を開催しています。参加できなかったスタッフにも内容を説明し全員で共有しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これとは思う言動やケアがあれば職員同士注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中々、機会がない為今後取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明しています。不安、疑問に思う事がないか確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為、現在は中止しているが、介護職員の方に月に一度来ていただき、お話して頂いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	中々、全員で集まることは今は出来ていないが業務の様子や利用者様の状態などを聞き取り反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格など取りたい職員には取得に向けた支援をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に関する講習会を紹介したり、研修などがあれば参加しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウイルスの為、ほとんどできていませんが、以前は月に一度、市で行われている会議等に参加していました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安や要望などをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に不安、要望を聞かせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時前に必要なサービスを決め、お伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のお話をしっかりと聞き、不安や要望などなるべく添えるように努めています。できることは、見守りながら支援させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に何かあれば、すぐに家族に相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染の為、あまりできていませんが、面会、外出、外泊などはして頂く事ができます。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しています。ほとんどの方が日中はホールにおられ、会話をしたり、家族の様に過ごされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を話しやすい環境作りに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を記入して頂き、会話の中で、今までの暮らしなど聞いています。入居後も経過の記録を記入しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝はバイタルチェックを行い、体調の変化があれば看護師、かかりつけ医に相談しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表に変わった事があれば記入、関係者から情報を集め、介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はiPadに細かく記録し、変更内容などは申し送りノートや口頭で伝え、共有している。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話しあい変更しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は回覧板などで知ります。参加できる事は参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にお聞きし、本人が希望する所があれば今まで通りの病院へ受診して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば看護師に伝え次の支援に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に情報を送らせていただいています。その後も病院と情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	多職種と連携し、本人、家族と情報を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に訓練をしています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的に行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、言葉使いは親しみをこめた優しい言葉かけに心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を言いやすい様に声をかけたり、雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりはありません。利用者様のペース、様子を見ながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は馴染みの物を着て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人、食べやすい食事形態で提供しています。食事の下膳やテーブル拭きなど、できる方は行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は細かく記録し、状態を把握しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせて行っています。治療が必要であれば、訪問歯科を利用している方もいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行ける方は出る時間を把握し声かけしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳酸菌飲料など食事に取り入れてています。毎日排便の状態を確認し便秘の予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体決まっていますが、希望があればいつでも入れます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時もありますが、安心して過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、かかりつけ医に相談し説明を受けて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握して施設でもいかせるように支援しています。		

静岡県(グループホームサンシティとよだ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナであり要望に答える事はできていないが、要望が]あればできるだけお応えしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額なお金はお持ちいただけませんが、本人が管理できる範囲内であればお持ちいただいています。買い物に行きたい方は付き添いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をして頂いています。携帯電話を持っている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔に努めています。ホールには掲示物を月ごとに変えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファが2つあり好きな所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き使用しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で安心安全に暮らして頂ける様に身の回りの物はその方にあった物を使用しています。		